



Team Shiroyama

Peace 飛び交う、日本一楽しい学校をつくろう！

HP <https://www.nagasaki-city.ed.jp/shiroyama-e/>

令和 7 年 4 月 7 日

学校だより 第 1 号

校長 宮田 幸治

祝進級 みなさん、おめでとう！シン・城山小に！

満開のかよこ桜の花びらが少しずつ風に舞う学校に子供たちの元気な声が戻ってきました。
17人の新しい先生方を紹介した後、始業式で子供たちに今年度取り組んでほしいことをお話ししました。

今年度は、学校の約束を「みんなが気持ちよく、安心できる 言葉づかいで、気づき、考え、行動をする」の一つとして、全校のみんなが約束を守って生活し、常に「城山小学校の子供でよかった」とみなさん方全員が答えることができるようになってほしいと願っています。その願いを込めて、学校の合言葉を「Peace 飛び交う、日本一楽しい学校をつくろう」とします。これまでとちょっと違ったところがありますが、気づきましたか？そうただの楽しい学校ではなく、「日本一楽しい学校」にすることです。日本全国のどの学校もうらやましが「日本一楽しい城山小学校」を作っていきます。

誰もが知っているように、本校は「平和は城山から」と平和な世の中づくりに向けて自分たちの思いを発信していく学校です。残念ながら昨年度のピースアンケート（生活上の悩み等を尋ねるもの）では、「人が嫌がる言動で悲しい思いや寂しい思いをしている人がある。」と答えた子供が約30%ほど見られました。これは子供にとっても指導する教師にとっても大きな課題と考えました。そこで、全教職員で全ての子供を育てるという共通理解のもと、改善に向かうべき取組に挑んでいくこととしました。めざすは、「城山小学校の子供で良かったと感じている子供」、「城山小学校でみんなと働くことができてよかったという職員」が共に100%です。

【その1:体育科学習の充実から心の教育につなげる】

今年度、県教育委員会体育科研究「子供の体力向上実践モデル校」の指定を受け、体育科授業の充実、子供が思わず体を動かしたくなるような仕掛けづくりに取り組みます。その起点として「ルールを守ること」「友達と協力すること」「勝敗やがんばった結果を素直に認めること」「友達の良さを認めること」などの遊びや運動に取り組む態度の向上をねらい、平和に関する資質の向上に結び付けていきます。

【その2:違いを認め共に学ぶインクルーシブ教育の充実】

特別支援学級の障害に応じた小集団による学習等に加えて、障害の枠を超えた学級編成（きらり1組～5組）を行ってインクルーシブ教育の充実を図るとともに、交流学級においては副担任的な立場でその学級の支援もおこなっていきます。

【その3:全ての教員がチームで指導】

指導の最小単位を学年と考え、1組～3組の学級担任、きらり担任・専科等も含めて学年チームを編成し、全ての子供を育てる（共創して協働する）ことを進めます。同学年会チーム、低・中・高のグループの誰もが教室を出入りし、まず、道徳の学習、朝の会・帰りの会から交換指導を始め、可能な場合は教科の交換等にも挑戦していきます。子供たちには、困ったり悩んだりした

ときは、担任の先生はもちろんですが、他のどの先生に相談してもＯＫと伝えています。

また、生活目標や給食目標、保健目標、毎学期の学級の目標など多くの目標があったものも見直し、学校の約束として「みんなが気持ちよく、安心できる言葉づかいで、気づき、考え、行動をする」の１つだけ目標を示します。これを受けて、合言葉の実現に向かい、目指す子供像の達成に向けてどんな行動を行う学年となるのか、各学年チームで話し合っ学年目標を立てて学年チーム共通で取組を行っていきます。この実践を学校経営の主軸として、楽しい学校づくりと平和教育の充実につなげていきます。

【その４：昨年度からの取組の継続】 ※ 昨年度末の学校運営評議委員会でご了解をいただきました。

（１）継続

①城山スポーツフェスタ。（かぶとがにアリーナ開催）

１２月から職員会議で企画検討を進め、校長から新６年生へ昨年度３学期に趣旨説明とアイデア協力をお願いしますをしています。（すでに校長室にアイデアを話に来てくれた子供もいます。）

②通知表２回発行（１０月初旬・３月修了式）と個人面談の実施。

保護者面談：４月（希望者）、７月（全員）、１２月（希望者）。

子供の面談：７月（全員）、１２月（全員）＋ピースアンケート、アセスアンケート。

③変更した日課のブラッシュアップ

週及び学期末で日によって大きな変化がなく、子供が落ち着いた学校生活を送ることができるように、メリハリを付け見通しを持って実施していく。

（２）新規

①市被爆８０周年記念事業への取組、参加。

２年に１度、平和公園で開催される市平和祈念式に６年生が参加していますが、今年度は被爆８０周年を受けて市主催で特別な取組が行われます。山里小学校の子供と一緒に活動するなど例年と違う方法での参加となります。（詳細がわかりましたらお知らせします。）

学校経営方針の具現化に向けて、子供の成長を主軸において必要なものは見直しを行い、課題の改善に向けていきます。「やってみて、考え、またやってみる」取組です。例年通りではないことも見られる場合もあります。ご理解とご協力をお願いします。

学習指導要領の 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開
理解と具現化 する中で、「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」の実現を図り、子供に「生きる力」を育むことを目指す。

長崎県教育方針並びに長崎市教育方針に則り、特に長崎市第五次総合計画「まちづくりの方針」GI+BIの具現化を目指す
長崎のまちを愛し、新たな時代を生き抜く子どもを育みます **被爆の実相を継承します**

- | | | |
|-----------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
| G1-1 「確かな学力」の向上を図ります | G1-3 家庭・学校・地域の連携による教育の充実を図ります | B1-2 平和教育・学習の充実を図ります |
| G1-2 健やかな心と体を育成します | G1-4 安全・安心に学べる教育環境を整備します | B1-3 多様な方法で継承の取組みを推進します |

学校教育目標

目指す学校の姿

目指す子供の姿

(共生・平和希求)

いたわり はげます 平和な学校 ～「平和は城山から」～

学校の合言葉「Peace (ピース) 飛び交う、日本一楽しい学校をつくらう」

自律: みんなが仲間のために動き、幸せいっぱいになるために、例示を基に考え、判断し、決定し、自ら行動する
対話: 仲間と共に生きるために、仲間の考えのよさを認め、対話を通して仲間と納得解を出す
選択: 問題の解決の仕方を学ぶために、仲間のよいところや学んだことからよりよい方法を選択し、情報や技術を活用して、まずやってみる

城山小の約束

みんなが気持ちよく、安心できる言葉づかいで、気づき、考え、行動をする

大人も子供もウェルビーイングな学校 ⇒ 幸福感を感じる、安心できる

意見の対立からの争いをなくし、平和な世の中づくりに寄与する姿

「友達と仲良くする」という日々の人権教育は土台

4つの姿の見える化

- ①合言葉をもとに、友達に声掛けをしている
- ②学校、教室は、明るく楽しい
- ③平和への想いを発信しようとしている
- ④城山の子供でよかったと感じている



4つのコソの意識化

- ①失敗しても大丈夫、やってみようという気持ちをもつ
- ②どんなことにもありがたの気持ちをもつ
- ③どんなときも何とかなるとあきらめない
- ④人と自分を比べずに、あなたらしさに自信をもつ

本校教育活動を支える基盤づくり

【体育科研究を主軸として、教科横断的なカリキュラム編成を基にして】(学習指導要領の趣旨に沿った実践)

体育科の指導内容、学び方から平和に関する資質を高める

- 「学びに向かう力、人間性等」の具体的な指導内容の習得から、他教科の学習及び学校生活全般に広げ、平和教育・人権教育の充実を図る。
- 体力向上は学力向上の土台⇒校内のプレイパーク化 ○体力向上⇒気力・やる気の向上・心の安定⇒粘り強さ・意欲の向上⇒学力向上 ○体育的行事の工夫
- 同時期1単元で学習を展開する体育科年間単元配列と体育館・運動場の割当ての見直し。

子供が楽しさを感ずる活動のアイデアを出し合う

- 学年・学級活動・学校行事・毎月の平和祈念式・総合的な学習など体験的な学習と関連させた問題解決的な学習としての道徳の展開を。
- ⇒横断的なカリキュラムの修正、年間単元配列一覧表の修正

【学校全体で支持的風土の醸成】

活動時の雰囲気

- 肯定的な人間関係、情緒的開放 ○深い児童理解 ○人を馬鹿にする言動 やごまかそうとする態度はしっかりと指導する。
- 温かく、柔らかく、シンプルな学習規律、取組の示し(全校で揃えて、発達の段階に応じて学年で同様に示す)**
- 授業開始・終了時のあいさつの言葉、友達の発表への返しの言葉などの定型句を見直す。(「始めます」「終わります」……)
- 「わずかしいな、わからないことがある」とつぶやくことができるような約束事を工夫する。

学級・学年・代表委員会等で話し合う場の確保、子供のアイデアや取組につながる教師の例示

- 禁止事項を多用せず、子供に話し合わせて約束事を決めて、それを守るよう仕向けていく。(自分たちで決めたことは守る)
- 子供の「なぜ?」に納得できる理由をしっかりと示しながら、子供と対話する。

【指導の最小単位を学年と考え、同学年、低・中・高のまとまり、きりり・専科との協力で全ての子供を育てる(共創して協働する)】

同学年会チーム、低・中・高のグループでの先を見通した打ち合わせ、現状と悩み等の情報交換を、きりり担任との情報交換・共通理解・連携を。

- 子供に関すること、指導上の悩み、指導の工夫・教材の工夫などの共有化を図る。
- チーム担任制の試行⇒同学年会チーム、低・中・高のグループの誰もが教室を出入りする⇒道徳の授業、朝の会・帰りの会から乗り入れ。

城山小学校の教職員として

【「いいね行動」が表れるように、正の強化をねらった指導を基本として】⇒C4th「いいとこ見つけ」を全職員で活用する

同学年会チーム、低・中・高のグループで、共通理解を図り、方法を工夫する

- ◎「いいね行動」をしたときに「すぐに」褒める、ほんの少しでもできたら褒める。(25%ルール⇒発達の段階に応じながら子供に求め過ぎないように)
- 「よくないね行動」をしたときこそ相談をして対応の工夫をする。(子供の行動の背景を受け止め、子供を追い込むことがないように)
- 「あぶないね行動」をしたときは、やめるように指示をする。(小学校の子供の発達の段階に応じて、ならぬことはならぬ!)

職員室の支持的風土の醸成(不祥事発生をともに防ぐことにつながる)、協力して、安全・安心については確実に配慮する

- 「すべての子供が」をキーワードとして、互いに思いを語り合い、「ねらいは何か」「なぜそれを行うのか」に立ち戻り考えをめぐらせることができるよう、アイデアを出し合う(仲間との合意形成を図り、目指す学校の姿の達成に向けた取組を共に行う。子供のこの話題は配慮を。)
- 生活科や総合的な学習、特別活動を中心としながら、場面を捉えて探究的な学習を仕組み、本物に触れる機会を計画的につくる。
- ⇒外部講師の積極的な活用によりキャリア教育の充実を図る。(子供が夢や憧れを選択できるように仕向けていく)

【同学年会チーム、低・中・高のグループで協力し、働き方改革の具現化を図る】(業務の分担、ICT活用)

超過勤務の縮減

- 仕事の見通しを持ち、計画的にメリハリをつけて業務に取り組む。(協力・分担しながら)
- ねらいを確認しつつ、質を維持しながら、効率的に実施できる方法を企画し、できるものから改善していく。(前例踏襲、思い込みの見直しを。)

ICTの活用

- 学習指導はもちろんのこと、校務にも積極的に取り入れていく。(学習での効果的活用、持ち帰りによる宿題の設定、C4thの活用、Googleの活用)
- Qubena(キューベナ)・MEXTBT(メグビット)の積極的活用推進。(学びの個別最適化につながる家庭学習や習熟学習の工夫)